

1 施設整備の基本方針

(1) 周辺景観に調和した歴史・文化を感じる空間の創造に配慮した施設づくり

都市公園内の市立図書館や松本清張記念館等の周辺の文化・歴史施設に囲まれた敷地特性を活かし、周辺景観や公園景観、自然環境等に調和した施設づくりを行う。

(2) 地球環境に配慮した環境にやさしい施設づくり

南側に大きく庇を跳ね出す建物形状の工夫や日射の調節等、環境負荷低減に配慮した施設づくりを行う。

(3) 必要な機能を有するとともに管理・運営のしやすい施設づくり

資料館として必要な機能を発揮するための諸室のゾーニングを明確にし、コンパクトで明快な同線計画とすることで、管理・運営をしやすい施設づくりを行う。

2 施設概要

(1) 建設場所 小倉北区内4番 (勝山公園中央図書館北側駐車場内)

(2) 延床面積 約940㎡ (屋外床面積を含めると約990㎡)

(3) 構造 鉄骨造 (一部、鉄筋コンクリート造)

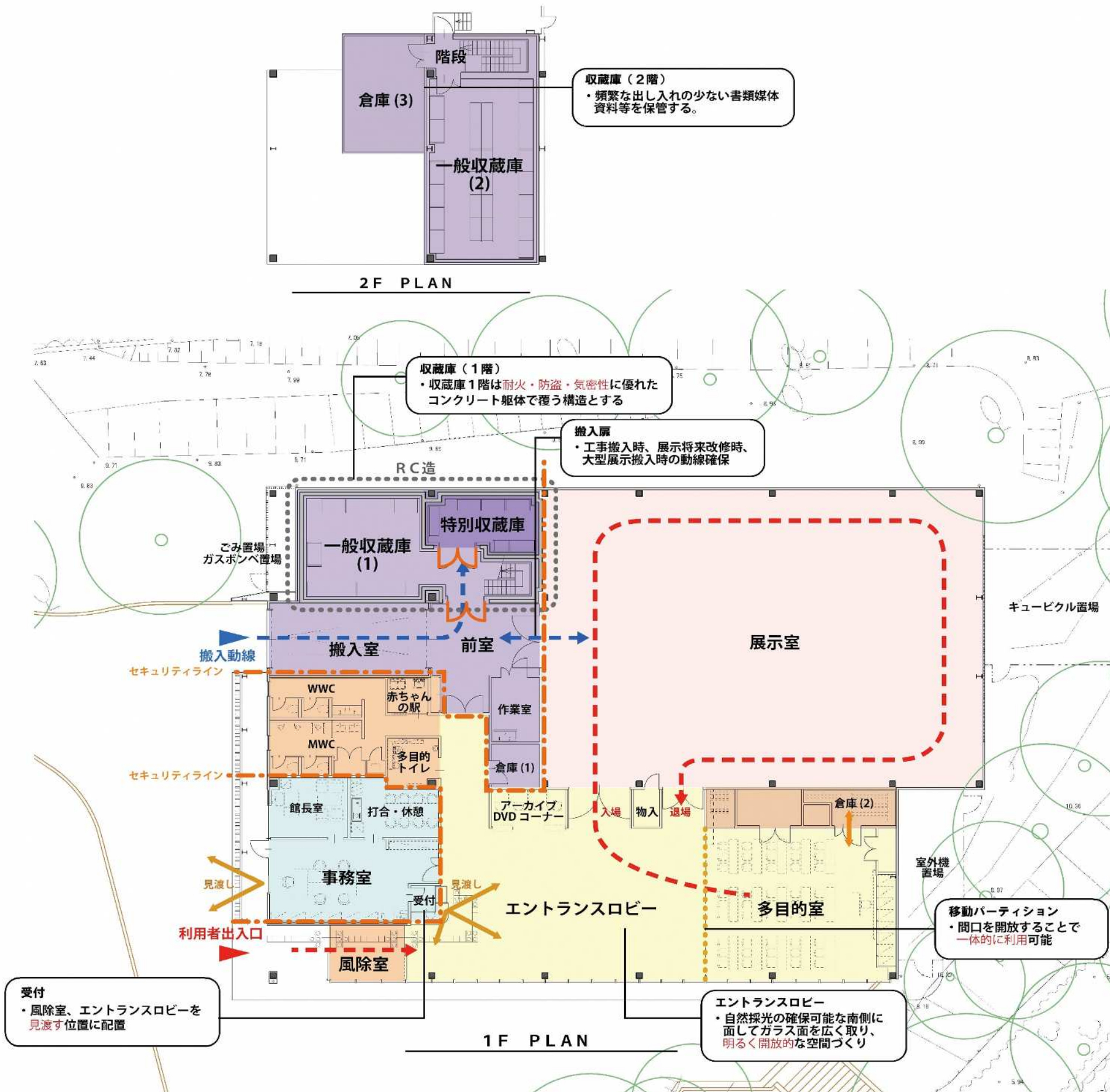
(4) 工事費 約8億円 (展示製作を含む)

(5) 各室床面積

施設機能	諸室	面積 (㎡)	施設機能	諸室	面積 (㎡)
展示機能	展示室	341.00	研究機能	事務室 (館長室を含む)	47.65
	一般収蔵庫 (1階)	51.42		打ち合わせ・休憩室	12.36
収集・保存機能	一般収蔵庫 (2階)	54.81	学習・交流機能	団体ガイダンス・多目的室	73.60
	特別収蔵庫	18.77		エントランスロビー	154.81
	収蔵庫階段部	12.72		風除室	11.52
	作業室	8.63	その他	トイレ・赤ちゃんの駅	44.81
	搬入室	31.20		倉庫 (1階)	9.40
	前室	26.33		物入他	14.85
	倉庫 (1階)	5.88	屋外床面積	キュービクル、室外機置場 ごみ置場、底下スペース他	47.05
	倉庫 (2階)	25.22			

(6) スケジュール (案) 令和元年度工事着手 (開館時期は工事の進捗に応じて決定)

3 諸室構成・平面計画



(1) 展示機能

① 展示室

- ・展示計画のしやすい整形計上とする。
- ・出入口は入退場各1カ所とすることで出入の交錯を防ぐ。

(2) 収集・保存機能

① 一般収蔵庫

- ・耐火性・防盜性・気密性を配慮する。
- ・内部は調湿性に優れた材料を使用する。

② 特別収蔵庫

- ・他館からの貸借資料等を適切に保管するため、コンクリート壁の設置とともに、壁内空調を行う。

③ 搬入室

- ・2トントラックの駐車を想定したスペースを確保する。
- ・車両全体を入庫し、安全な搬入を実施する。

④ 前室・作業室

- ・空気環境を安定に保つとともに、外気の流入を抑制する。

(3) 研究機能

① 事務室(館長室を含む)

- ・内外を見渡すことができる配置とする。
- ・打ち合わせスペース等を確保する。

(4) 学習・交流機能

① エントランスロビー

- ・南側に面してガラス面を広く取り、明るく開放的な空間づくりを行う。
- ・ロビー内にはDVD・アーカイブコーナーを設け、所蔵資料の閲覧を可能とする。

② 団体ガイダンス・多目的室

- ・小学校等の団体向けの事前説明や講演会等の館の事業用のスペースを確保する。
- ・間仕切り壁を開放し、エントランスロビーと一体的な利用を可能にする。

(5) 学習・交流機能

① トイレ・赤ちゃんの駅

- ・災害による配管破損等に考慮し、収蔵庫と隣り合わないよう配置
- ・車いす利用者用等の多目的トイレを配置する。

1 展示室・平面計画



2 展示製作の基本方針

(1) 展示の基本的な考え

① 展示資料

- ・ 市民から寄贈された北九州の戦前から戦後の市民の暮らしが分かる実物資料
- ・ 米国国立公文書館等から収集した北九州に関する写真資料、映像資料
- ・ 原爆被災資料（長崎原爆資料館協力） 等

② 対象となる時代

- ・ 戦前（大正末期）から戦後、北九州市が誕生する（昭和38年）まで

③ テーマ

- ・ 戦争により大きく変わった人々の暮らし・“まち”の様子
- ・ 北九州を襲った空襲の被害、原子爆弾と小倉
- ・ 戦後、復興を果たした“まち”の様子

(2) 展示のねらい

- ・ 当時の人々の気持ち等に思いをさせ、平和の大切さ等を考えるきっかけとする
- ・ “まち”への誇りや愛着の心を醸成する

(3) 展示の方針

- ・ 来館者が体験・体感でき、映像・音響設備を活用した効果的な展示
- ・ 事実に即した正確でわかりやすい展示
- ・ 子供たちの目線に立った展示

3 展示ストーリー・主な展示設備等



■プロローグ（導入展示）

- ・ 小倉陸軍造兵廠の位置や規模を表す大型グラフィックの展示。
- ・ 来館者が資料館設置の意義を認識し、展示鑑賞への期待感を高める。



■戦前の北九州

- ・ 兵器の製造風景等の映像と工場模型への投影を行うプロジェクションマッピング。
- ・ 小倉陸軍造兵廠の全貌をリアルな立体感で再現する。



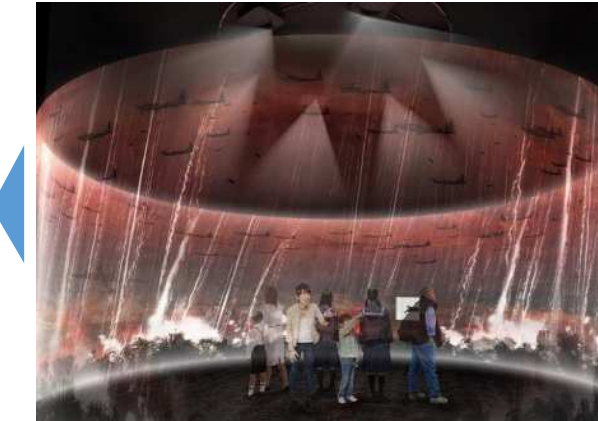
■戦争と市民の暮らし

- ・ 当時の暮らし振りが分かる再現展示。
- ・ 日々の暮らしが戦争と隣り合わせにあったことを実感する。



■戦後の復興

- ・ 旧5市が復興の歩みを進める姿を伝える映像モニター。
- ・ 再び発展し、北九州市が誕生する“まち”の移り変わりを知る。



■運命の昭和20年8月8日・9日

- ・ 映像や音響を活用した360度シアター。
- ・ 8月8日の八幡の空襲、翌9日の原爆を搭載した爆撃機が小倉上空を飛来した後、長崎に向かった出来事を追体験する。



■空襲の記憶

- ・ 壁面に投影された言葉をタッチし、様々な証言が浮かび上がる映像装置。
- ・ 市民の過酷な戦争体験に触れる。



■エピローグ

- ・ タッチペンで感想を書き込める参加型体験装置。来館者の心の変化を感じる。
- ・ 北九州市の平和事業を紹介するパネル展示。

■企画展示室

- ・ 常設展示の一部をさらに深める展示等、期間限定で企画展示を行う。
- ・ 資料館の収蔵資料等に限定せず、本市の戦跡紹介や他都市の資料館等からの借用した展示の他に、文化、風俗等をテーマにした幅広い視点で展示を行う。

■その他

- ・ 小倉陸軍造兵廠で製造されていた風船爆弾等の模型展示
- ・ 北九州に投下された焼夷弾の模型展示
- ・ 戦時下の暮らしを体験的に理解するハンズオン展示
- ・ 各コーナーに資料検索用の画像検索モニター
- ・ 北九州の“いま”・“これから”を紹介するモニター



1 障がいを持っている人等、多様な来館者への対応：より多くの方が利用できるよう字幕表示、言語解説、触知感知等の対応を行う。

(1) 多言語による展示解説 (QRコードを使った多言語対応)

- 解説文にはQRコードを付け、多言語による解説が可能
- スマートフォンやタブレットでQRコードを読み取れば、多言語に翻訳された解説を見ることができる。

- 5言語による解説が可能
- 表示する文字は見やすさを重視したデザインを採用

(2) 点字を使った展示解説 (触知感知)

イメージ例

グラフィックの上に重ねて点字

点字

- 視覚障害者ができるテーマ毎に、概要をまとめたシートを用意する。

〈参考〉触知シートの例

(3) 字幕やテロップによる映像解説

日英表記テロップのイメージ例

- 映像解説を行うため、日本語の解説に加え、英語に翻訳した字幕・テロップを表示する。

※画像・文章は参考です

2 収集資料の例：関係機関等の調査や市民公募等を行い、資料の収集を進める。

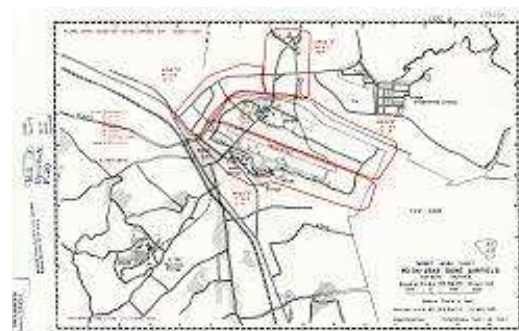
(1) 米国国立公文書館から入手した資料



▲門司の空襲に関する報告書



▲若松・戸畑市街地の航空写真



▲曾根飛行場に関する報告書



▲昭和28年の水害 (小倉北区)

(2) 寄贈資料



▲国防婦人会写真



▲子供用水筒 (陶器製)